

第5回 教育研究評議会 記録

- I 日 時 令和元年7月18日(木) 13時30分～15時10分
II 場 所 理工学部1号館4階 第1会議室
III 出席者 平塚学長(議長)
峯岸, 窪田, 栗山, 本多, 齋藤, 高山, 石崎, 横山, 関, 佐藤, 田中,
柿本, 小山, 輿石, 石間, 藤谷の各評議員
陪席者 工藤, 末松, 花屋, 白尾の各副学長, 岡野監事
欠席者 田村理事, 西菌評議員, 渡邊副学長(定足数外), 森田監事(定足数外)

議事に先立ち、前回の会議記録の確認を行った。

IV 議事概要

1 審議事項

- (1) 安全保障輸出管理規則の改正及び関東(北部)エリア安全保障貿易管理ネットワークへの参加について

窪田理事から、資料1に基づき、安全保障輸出管理規則の改正及び関東(北部)エリア安全保障貿易管理ネットワークへの参加について説明があり、審議の結果、原案どおり承認し、役員会に付議することとした。

- (2) 共同教育学部の教育ポリシーについて

峯岸理事から、本学教育学部と宇都宮大学教育学部の共同教育学部設置に伴い、共通の教育ポリシーを策定することについて説明があった。その後、齋藤教育学部長から、資料2に基づき、共同教育学部の教育ポリシーについて具体的な説明があり、審議の結果、原案どおり承認し、役員会に付議することとした。

- (3) 教育研究組織の機能強化に係る入学定員について

平塚学長から、追加資料に基づき、新情報系学部の設置が1年先送りになったことに伴い、令和2年度における教育学部及び理工学部の入学定員、並びに令和3年度における新情報系学部及び理工学部の入学定員を見直すことについて、文科省に事前説明を行い、概算要求を行うことが了承された旨の説明があった。審議の結果、令和2年度の入学定員について、一部資料を修正のうえ承認し、役員会に付議することとした。

審議の過程において、学長から、入学定員について、教育研究評議会の審議前に入試委員会に提案されたことに関して今後は注意するとの発言があった

社会情報学部の評議員から、教育研究評議会で決定した事項に変更が生じた場合には、再度、教育研究評議会で審議・決定する前に説明して欲しいとの意見が出された。

2 報告事項

(1) 就業規則等の一部改正について

栗山理事から、資料3に基づき、就業規則等の一部改正について報告があった。

(2) 東日本大震災罹災学生に係る入学料及び授業料免除の判定結果について

峯岸理事から、資料4に基づき、東日本大震災罹災学生に係る入学料及び授業料免除の判定結果について報告があった。

(3) 平成30年度群馬大学ベストティーチャー賞の選考結果について

峯岸理事から、資料5に基づき、平成30年度群馬大学ベストティーチャー賞の選考結果について報告があった。なお、表彰式及び公開模擬授業については、9月に実施予定であり、資料は差し替える旨、説明があった。

(4) 2019年度学生海外派遣支援事業奨励金の支給について

末松副学長から、資料6に基づき、2019年度学生海外派遣支援事業奨励金の支給について報告があった。

(5) 科研費、共同研究、受託研究及び寄附金の件数及び金額の推移について

窪田理事から、資料7に基づき、科研費、共同研究、受託研究及び寄附金の件数及び金額の推移について報告があった。

(6) 2019年度 群馬大学・宇都宮大学主催共同セミナー『英語学習につまずく子どもの理解から始まる支援—理論と実践の融合』

峯岸理事から、資料8に基づき、2019年度 群馬大学・宇都宮大学主催共同セミナー『英語学習につまずく子どもの理解から始まる支援—理論と実践の融合』（8月1日、2日開催）について案内があった。

(7) 平成31年度公正活動教育の受講状況について

栗山理事から、資料9に基づき、平成31年度公正活動教育の受講状況について報告があり、未受講者について早期の受講を促すよう依頼があった。

(8) 第66回国立大学図書館協会総会について

田中総合情報メディアセンター長から、資料10に基づき、第66回国立大学図書館協会総会（6月20日、21日開催）について報告があった。

(9) 国立大学改革方針について

平塚学長から、資料11に基づき、文部科学省から提示された国立大学改革方針について報告があった。

(10) その他

社会情報学部の評議員から、企画戦略会議の議事録と資料に記載のあった「情報

系新学部設置準備委員会」について確認したいとの発言があり、以下の内容について峯岸理事等から説明を行った。

- ・情報系新学部設置準備委員会は、メンバー構成などが違うが内容は平成 30 年 10 月の評議会で審議・承認された総合情報学部（仮称）設置準備委員会と同じものである。委員会の名称が違うことについては、当時も名称にこだわらない条件のもとで承認されたのだからこれでよい。今回も名称にこだわらない。

- ・現在準備している新学部も、1 学科 4 プログラム、文理融合といった大きなコンセプトは同じである。変更が生じた場合は、再度、評議会で審議する。具体的な中身は準備委員会などで詰めていく。

以 上